

Q26 保護者との連携をどのように進めたらよいでしょうか。



特別支援学級担任

自立活動の指導は、保護者との連携が必要なのでしょうか。



通級指導教室担当

日常的な情報交換は、在籍学級の担任がしている、直接、保護者と話す機会が少ないです…。



特別支援学級担任

保護者とどんなことで連携を取ったらよいのか、よく分かりません。

A 実態把握の際に保護者から情報収集をしたり、目標・内容の設定、評価を共に行ったり、日常的に情報交換をしたりして積極的に連携を図り、学校と家庭の両輪で指導を進めます。

自立活動は、児童生徒の学習上及び生活上の困難を改善・克服する指導ですから、学校生活場面のみならず、家庭生活場面についても、実態把握を行い、目標・内容の設定、評価等、積極的に連携を図り、学校と家庭の両輪で指導を進めることが肝要です。

その際、「分かりました。焦らず一緒に対処を考えていきましょう。」という「傾聴・共感・受容」の姿勢を示すことが、精神的な支えになります。また、児童生徒の指導について信頼や安心感が得られることで、保護者は悩みを語りやすくなり、願いや思いが整理されていきます。

連携に消極的な保護者にも、粘り強く働きかけ、信頼関係の形成を図り、保護者からの情報提供を得るようにすることも重要です。

以下の場面や方法で、家庭での様子や生育歴、医療に関する情報、福祉施設での様子等の情報を収集したり、学校での様子を伝えたりして、実態把握や目標・内容の設定、評価、情報交換等、連携を図ることが大切です。

- 送迎時の会話（情報交換）
- 連絡帳
- 年度始めや年度末等の個別の教育支援計画、個別の指導計画に関するアンケート
- 個別面談で、個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用して
- 家庭訪問
- 授業参観や学級懇談会
- ケース会議（支援会議）で個別の教育支援計画を活用して



通級指導教室において、

- 連絡帳を在籍学級のもの兼ねて、保護者、在籍学級担任、通級担当の三者で共有する
  - 個別懇談に在籍学級担任も同席する
- など、連携方法を工夫している事例がありました。

※令和4年度小・中学校通級指導教室における指導の実態と課題に関する調査研究より